

市議会議員 桜井すぐる 市政懇話会

【令和2年1月20日】

◆今回の主な内容	頁
北本市の基本理念と将来都市像	1
北本市の現状と課題	2
どうやって収入を確保するか	3
どうやって支出を減らすか	4
公共施設マネジメント	5
北本市が抱える大規模プロジェクトの見直し	6
三宮ゆきお すぐに取り組みます 10のお約束	7

北本市の基本理念と将来都市像

自治基本条例

誰もが安心して生活できる個性豊かな自立したまちを
みんな（市民・事業者・議会・市長）の力で築く

北本市第五次総合振興計画

基本理念 「市民との協働による持続可能なまちづくり」

将来都市像 「緑にかこまれた健康な文化都市

～市民一人ひとりが輝くまち 北本～」

政策の大綱

- ①子どもの成長を支えるまち
- ②健康でいきいきと暮らせるまち
- ③みんなが参加し育てるまち
- ④快適で安心・安全なまち
- ⑤活力あふれるまち
- ⑥健全で開かれたまち
- ⑦人口減少に対応するためのリーディングプロジェクト

北本市の現状と課題

1. 人口減少への対応

人口減少 ⇒ 税収(収入)の減少
高齢化 ⇒ 社会保障費の増加

◆ 北本市の課題

(1) どうやって収入を確保するか。

(2) どうやって支出を減らすか。

北本市の現状と課題

(1) どうやって収入を確保するか。

① 人口減少を防ぐ

シティプロモーション、リーディングプロジェクト

② 税以外の収入を増やす

ふるさと納税、使用料・手数料の見直し

③ 増税

地方消費税 1.7%→2.2% (R元～)

都市計画税 0.25%→0.20% (H24～)

北本市の現状と課題

(2) どうやって支出を減らすか

- ① 公共施設マネジメント
- ② 大規模プロジェクトの見直し
- ③ 社会保障の適正化・効率化
- ④ 自助・共助の拡大

} 国の方針

①公共施設マネジメント

公共施設等総合管理計画基本方針 H29.3策定

方針1:施設の長期活用

方針2:施設の機能や規模の適正化

方針3:コストの縮減と平準化

⇒目標:公共施設の延床面積を今後40年で半減

H30 基礎調査

R1 適正配置計画の策定(3月末に市民説明会)

※廃校となる学校に公民館の生涯学習機能などを
機能移転し、公共施設として利活用する方向性

②北本市の抱える大規模プロジェクトの見直し

久保特定土地区画整理事業

- 施行期間はH8～R7だが、総事業費進捗率41.3%、区画街路整備率38.3%、保留地処分率4.9%(H30年度末)。
- 総事業費約110億円、その財源のうち保留地処分金が約21億7,200万円(実勢価格よりもかなり高い設定)。
- H30決算額は事業費約1億3,800万円に対し、事務費が約5,254万円。事務費ばかりが嵩んでいる状態。



新ごみ処理施設整備

- 鴻巣行田北本環境資源組合において令和6年度までに新施設を鴻巣市内に建設する予定だったが、令和元年12月に白紙決定。
- 埼玉中部環境センターは老朽化
- 埼玉中部資源循環組合も破綻
- 桶川市環境センターは廃止され、現在は他の自治体などに焼却を委託



三宮ゆきお すぐに取り組みます 10のお約束

- ① 消滅可能性都市一掃のための女性・子ども・若者1億円プロジェクト
- ② 南部新駅、圏央道・上尾道路沿線開発のあらゆる調査を実施
- ③ 子どもの命・学びの権利を守る「教育改革市民会議」(仮称)の設置
- ④ 「子どもの本のまちづくり」の推進
- ⑤ 高齢者(特に一人暮らしの方)・障がいのある方の元気のてる居場所づくり(全市50箇所)
- ⑥ デマンドバスの利用エリアの拡大(隣接市町の医療機関)
- ⑦ 駅東口広場の利便性向上のため歩道部分の屋根かけ
- ⑧ 市街地の中の緑の保全(宮内緑地等)
- ⑨ 芸術文化と雑木林・里山をコラボした史跡回遊路の整備
- ⑩ 北本の暮らしの原点、「デーノタメ遺跡」の国史跡化